

2014/12/14 の定期メンテナンスにおけるアップデート情報

2014年12月14日に定期メンテナンスを実施しました。

kintone APIに、事前情報でお知らせした下記の変更が適用されています。尚、事前情報から追加された情報はありません。

kintone JavaScript API

改修される不具合

- APIで「リッチエディター」フィールドを編集不可に変更しても、フィールドの表示が変わらない。
※2014年11月9日のアップデートでkintoneに追加された、新デザインを適用した場合のみに発生する不具合です。
- フィールドの変更イベントで、一部のタイプのフィールドのerrorプロパティに値を入れてエラーメッセージを表示すると、その後errorプロパティをクリアしても、画面上のerrorのメッセージが消えない。
- プロセス管理機能を有効にしたアプリで、編集権限を持たないフィールドがフォームにあると、そのフィールドの値を更新したかどうかに関わらず、ステータスの変更失敗する。
- APIでフォームのカテゴリフィールドを編集不可にできない。
※2014年11月9日のアップデートでkintoneに追加された、新デザインを適用した場合のみに発生する不具合です。
- 計算式が参照するフィールドが空の場合に、レコード編集画面で関数「`kintone.app.record.get()`」を使用して取得される計算フィールドの値が正しくない。
(改修前)：「#N/A」
(改修後)：空

追加される機能

次のイベントの発動を監視できるフィールドのタイプに、「文字列（1行）」フィールドと「数値」フィールドを追加。

- レコードの一覧画面で、指定したフィールドの値が変わると発動するイベント
(`app.record.index.edit.change`)

- レコードの追加画面で、指定したフィールドの値が変わると発動するイベント
(app.record.create.change)
- レコードの編集画面で、指定したフィールドの値が変わると発動するイベント
(app.record.edit.change)

kintone SDK(β) for Java

次の機能に対応しました。

公開済の [kintone API SDK\(β\) for Java](#) を再取得してください。

- フィールド名のマルチバイト文字に対応しました。
- ResultSetクラスにFieldTypeを取得するメソッドを追加しました。